

鬼ヶ嶽 若ノ嶋 撃破

紙相撲新聞

第153回本場所
八～九日目号

編集・発行
日本紙相撲協会

若ノ嶋の寄りに一歩も退かず

青木前理事長の念が後押ししか

〔第一百五十三回本場所八日～九日目〕

5月7日に緊急事態宣言の延長が決まり、その後、6月20日まで再延長となり、それに伴って本場所開催も延期となった。6月20日に緊急事態宣言が解除されて2ヶ月以上振り待ちに待った本場所に再開することに行われた。6月27日に八日目と九日目が行われ



八日目、若ノ嶋の強烈な寄りに対して、鬼ヶ嶽はかかとに根が生えたように一歩も後退せず、現役最重量の横綱を土俵中央仰向けに押し倒した。



連敗はできない若ノ嶋は九日目、気鋭の関脇千代鈴の寄りに苦戦するも腕を手繰って引き落しに下した。

かつて第127回本場所、関脇3場所目、若ノ嶋が初日に新大関鬼ヶ嶽に敗れたのみで、二日目から白星を重ね、千秋楽に勝つ優越の花に負けて9勝2敗で鬼ヶ嶽との優勝決定戦になり、鬼ヶ嶽に敗れて初優勝を逸した。

九日目を終えて、全勝が消えて横綱若ノ嶋と平幕の白閃光、鬼ヶ嶽の3力士が1敗で優勝争いの先頭に立った。これを大関佐賀ノ海、平幕の太刀鳳、鹿富士の3力士が2敗で追う展開となった。

「いやあ！久しぶりの本場所だなあ！」「元気があった？」と親方衆が久しぶりに顔を合わせて八日目が終わった。

間が空きすぎていたので七日目までの優勝争いをおさらいすると7戦全勝の鬼ヶ嶽、1敗と平幕の鬼ヶ嶽、1敗が大関佐賀ノ海と平幕

八日目に組まれた相手は再入幕を果たし、こちらも初日から負け知らずの7連勝と復活した元大関鬼ヶ嶽。八日目に全勝同士の対戦が組まれた。「鬼ヶ嶽が来ると思つたよ！でも、いくら全盛期の力がなくなっているとはいえないやいな相手だよなあ。鬼の顔を見るのもいやだよ。」と錦風親方。「それに青木が降臨して悪さをするように思えてならないよ。鬼ヶ嶽が勝つて、あいつの高笑いで話する顔が眼に浮かぶよ！」と笑っているよ！若ノ嶋だけに負けたくないって

その時に、青木氏が「いや〜！若ノ嶋に優勝させたかったよ！」と手を叩きながらこれほどない高笑いをした、その笑いがいつまでも止むことがなかったというところがあった。それだけに今回も「若ノ嶋に容易く優勝させないぞ！」という悪戯心みたいなものを青木氏を知る親方全員が感じているようだった。

「青木！見てるか〜！」と呼びかける磯ノ海親方。八日目結びの一番は、何か霊気のようなものが漂う中、約6年半ぶりの対戦の軍配が返った。立合いに押し込んだのは鬼ヶ嶽。そして鬼ヶ嶽が得意の強烈な輪で攻め立てると、若ノ嶋は堪えきれずにもんどり打って土俵中央で倒れた。「やっばり！青木が降りてきた〜！」と大笑いの磯ノ海親方。「やっばり、青木がいたよ〜！」と鹿賀乃戸親方。「このやる〜！」と悔しさを露わにする錦風親方だった。全勝対決は鬼ヶ嶽に軍配が上がり、優勝争いの先頭に立った。

- 一敗 若ノ嶋 白閃光
- 二敗 佐賀ノ海 太刀鳳
- 鬼ヶ嶽
- 鹿富士

第153回本場所星取表

若ノ嶋	横綱	春ノ翔	電翼	丸浪
鹿富士	大関	魁出羽	巨岩	山山
佐賀ノ海	大関	出羽	神季	山山
千代	小結	若	神季	山山
剛	前	大	武	山山
鳥	前	四	源	山山
朱	前	月	源	山山
白	前	次	源	山山
超	前	彦	源	山山
太	前	源	源	山山
大	前	源	源	山山
太	前	源	源	山山
照	前	源	源	山山
生	前	源	源	山山
鹿	前	源	源	山山
鉄	前	源	源	山山
向	前	源	源	山山
乃	前	源	源	山山
喜	前	源	源	山山
若	前	源	源	山山
角	前	源	源	山山
武	前	源	源	山山
山	1	雪	若	丸
魁	2	海	海	浪
雲	3	柏	陵	山
黒	4	西	勢	山
大	5	大	吹	山
初	6	櫻	吹	山
江	7	天	吹	山
若	8	天	吹	山
乃	9	水	吹	山
琴	10	氷	吹	山
電	11	氷	吹	山
三	12	氷	吹	山
西	13	氷	吹	山
神	14	氷	吹	山